

# STORY

SNSを通じて性暴力に反対する「#MeToo」運動が脚光を浴びて数年。日本でも多くの共感と連帯を生んだ#MeTooは、隣国・韓国ではさらに大きなうねりとなっていた。だが著名人を中心に#MeToo運動が広がった一方で、運動から取りこぼされた課題、かき消されてしまった声はなかつただろうか。苛烈な#MeToo熱が冷めた2020～2021年に撮影された「After Me Too」は、市井の人々による静かな抵抗を映し出す、4人の監督によるアンソロジードキュメンタリー。



## 女子高の怪談

ソウルにあるヨンファ女子高には、長く伝わる「怪談」のような噂があった。「その先生には気に入られず嫌われず関わらないことが一番」——。しかし、それは単なる怪談ではなく、連綿と続く歴史

に基づく「事実」だった。同校では、長年にわたり、教師による生徒への性加害が蔓延していたのだ。卒業生を中心とした告発に、在校生たちもすぐさま呼応し、ヨンファ女子高に#MeTooの輪が広がった。この動きはSNSを通じてさらに拡散され、報道や裁判にもつながっていった。

ヨンファ女子高から火がついた#MeTooムーブメントは他の学校の生徒たちにも大きな影響を及ぼし、全国的な「スクールMeToo」運動に発展した。運動に参加する生徒たちの心の動きと学校という場で続く構造的な性暴力を繊細に描き出す。

## 100.私の体と心は健康になった

飲食店で働くある中年女性「幸福」氏。彼女はある言葉を好み、ひたすらノートに書き綴っている。

「私の体と心は健康になった」——。

憑りつかれたようにそのフレーズを一度に100回ずつ書き連ねることは、「幸福」氏にとって「自分を治そうとする頑張り」なのだという。

彼女はカメラの前で、少しずつ、自身の内にある苦しみについて吐露し始める。そして長い間胸にしまっていた自分の被害体験を言葉にし、声に出して語ることを決心する。彼女は幼少期に性暴力にあったサバイバーだった。

慎重に言葉を探し、選び、何度も声に出して練習を重ねる「幸福」氏。そして彼女がそれを語るために向かった場所とは——。長く性的トラウマに苦しんだ「幸福」氏が自ら尊厳を回復していこうとがく姿を追った。



## それから

ビジュアル・アーティストのソンジニ氏は文化芸術界の性暴力に抵抗する活動家。釜山反性暴力連帯を結成し、被害者のサポートを始める。

映画監督のナムスナ氏は韓国映画界ではじめてスタッフを対象にセクハラ防止教育を行い、撮影時のセクハラ防止マニュアルを公開。独立映画

協会の性平等委員長となり、業界からハラスメントをなくそうと、キャンペーンや啓発活動に明け暮れた。パントマイム俳優のイサン氏は自らも性搾取の経験を持ちながら、性平等教育活動家として、文化芸術界の性暴力事件支援に参加している。

彼女たちの精神的な言動を通じ、韓国の芸術界における「アートMeToo」の現在地が見えてくる一方、その課題も明らかになっていく。性暴力の問題を解決すべき主体は一体誰なのか。社会に問いを投げかける一編。

## グレー・セックス

ワンナイトラブ、マッチングアプリを通じた出会い、恋人関係……。自らも「求めた」性的コミュニケーションのなかで起こった不快な出来事は、不快を感じた者のみが、自責とともに胸の内にとどめておかなければならないのだろうか。セックスにおいて誰かが不快を感じ取り残されてしまったとき、不快を感じた者だけが我慢し、問題を抱え続けなければならないのだろうか。加害者／被害者といった線引きが難しい、既存の用語では分類しきれない「グレー・ゾーン」のセックス体験をタブー視せず、性的自己決定権についてストレートに問題提起した意欲作。

